

インキュベーター等による科学技術成果の社会実装と都市計画の役割

(研究期間：平成 28 年度～平成 29 年度)



都市研究部 都市開発研究室 (研究官 工学博士) 河中 俊

(キーワード) サイエンスパーク、ビジネス・インキュベーター、用途地域

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. サイエンスパークと研究成果の社会実装

世界中で科学技術研究開発を行い、可能なものを製品化して社会実装することが競われている。様々な研究組織が集積した場をサイエンスパークと呼び、上述の社会実装もその目的の一つとされる。筑波研究学園都市は国が建設したものであるが、別に民間主導のサイエンスパークもある。また、サイエンスパークの内外にビジネス・インキュベーター施設が存在しており、起業して間もないベンチャー企業が入居して成長できるよう、官民で様々な支援を行っている。研究開発成果の社会実装のための重要な第一歩を手助けするのである。

2. 都市計画が産業育成にどう貢献できるかを探る

従来、このような企業支援活動は産業政策として考えられてきた。関西文化学術研究都市も民活型ではあるが国が建設に大きく関わってきた経緯がある。民間主導のサイエンスパークにおいても、国や地方公共団体がベンチャー企業を支援できることは多く、起業指導・経営指導・融資等が実施されている。

都市計画制度がこれらに積極的に関わってきたということは従来あまり報告されていない。そこで当研究室では(国研)産業技術総合研究所の木村行雄総括主幹の協力を得て、ベンチャー企業が立地を望む用途地域、ビジネス・インキュベーター施設が立地している用途地域、またベンチャー企業の経営マインドがいかなるものであるか等を調査した。

写真はつくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅前(商業地域)にあるビジネス・インキュベーター「柏の葉KOIL」である。共同利用スペースの奥に、ベンチャー企業が入居している部屋が並ぶ。

図はつくばエクスプレス沿線に立地するベ



写真 柏の葉 KOIL (ビジネス・インキュベーター)

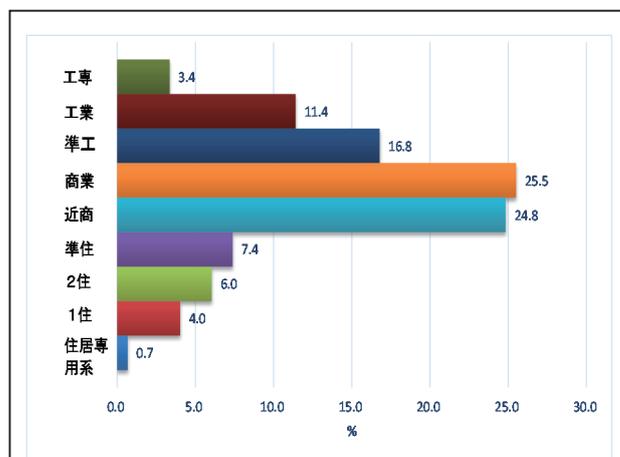


図 ベンチャー企業の立地希望用途地域(複数回答)

ンチャー企業500社を対象に平成28年度に行ったアンケート調査(回収率約2割)の企業が立地を希望する用途地域を単純集計したものであり商業系用途地域が強く指向されていることがわかる。平成29年度に1都6県の主要ビジネス・インキュベーター83件をWebで立地調査した結果とも傾向が一致している。

今後詳細なデータ分析を進めることにより、用途地域制を中心とした都市計画制度が産業育成に貢献できる要素を明らかにしていきたいと考えている。